

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201072		
法人名	社会福祉法人 豊心会		
事業所名	和幸苑グループホーム望み		
所在地	大分県別府市亀川東町20-14		
自己評価作成日	平成29年9月8日	評価結果市町村受理日	平成29年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成29年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切にしています。食事は3食手作りで、糖尿病やご本人の状態に合わせて代わりものを用意したり、食事が楽しめるように努めています。自治会にも加入しており、一緒に防災訓練や、法人の行事にも参加してもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・毎食、季節感とアイデアを盛り込んだ食べやすい手作りの食事が作られている。
 ・食器が滑らないよう滑り止めマットを活用したり、車いすに布を巻くなど、支援の中に職員の工夫やアイデアが活かされている。
 ・事業所運営に対して、地域住民や役員の理解・協力が得られており、事業所職員も地域の協力者として積極的に活動している。
 ・重度化した利用者が、安心して心地よく過ごせるよう、居室や食事、日々の声掛けなど様々な工夫が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のもと、地域の方々との関係性を大切にするようにしている。また、地域の防災士や自治会の一員として活動している。	地域の役員や住人との日常的な関わりや、緊急時の協力関係が構築されており、理念に掲げている「地域社会の一員として」の実践につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事に参加したり、防災訓練も合同に行っている。	日常的に地域住民や保育園との交流が行われている。事業所職員が地域の委員として研修に参加したり、地域の防災士として地域貢献を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の方には、防災訓練の際にボランティアをお願いし、認知症に対しての理解につながるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度自治会長・市役所・地域包括支援センター職員とともに運営推進会議を開催している。自治会と一緒にできることを話したり、意見を聞いている。	運営推進会議には、地域の自治会役員や委員の参加も得られており、事業所の運営や利用者支援の他、地域の福祉や防災についても話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	別府市役所高齢者福祉課の担当職員が推進会議に参加してくれ、サービス向上や情報交換とともに意見もいただいている。	運営推進会議には、毎回、別府市職員が出席している。困難事例の相談や助言、情報の提供を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束を行わないように取り組んでいるが、常にそばにいて見守りが必要な利用者様が車いすから転倒・転落骨折の可能性があり、動きが激しく夜間の他の方のおむつ交換(異性)と一緒にいけないときにベルトをしていただくときがあるが、できるだけなくて済むように努めている	常時見守りが必要な利用者の支援には、家族との話し合いを重ね、主治医に内服薬の調整相談、助言を受け、職員間で情報の共有を図りながら見守り支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	別府市主催の研修などに参加し勉強している		

事業者名:和幸苑グループホーム望み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見を利用していた利用者様がいたが現在はいない。必要な時に支援できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、不安や疑問に答えられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1度の運営推進会議の内容などは、面会時にお伝えしている。また、面会の際は状況報告や家族の要望なども聞くようにしている。	家族面会の機会も多く、面会時に意見や要望を聞き、日常の利用者支援に活かしている。毎月、請求書送付の際、担当職員が日常の近況や変化の報告コメントを同封している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時にグループホーム会議を開催し、職員の意見を聞ける機会を設けている	職員間のコミュニケーションが図られており、日常の勤務時に利用者支援や事業所運営の意見や提案などの意見交換を行っている。利用者の状況変化や情報共有必要時には会議を開いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心のある職員に対して資格取得の推奨を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格試験のための研修や試験が受けられるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1度グループホーム連絡協議会の研修を通じて他の事業所や多職種との交流が図れるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に、自宅に面会に行ったり病院でお会いしたりし少しでもなじみの関係になれるよう機会を持ち、家族だけではなく本人にも話を聞けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時にも困っていることなどを聞いたり、不安などにも対応できるようかんけいづくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスか見極め、状況によっては居宅事業所や、地域包括支援センターなども紹介している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	重度化しているため、介助が必要な利用者様が多いが、できることを積極的に行ってもらうなど声掛けしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態を毎月担当より手紙でお伝えし、家族の思いや意見なども面会時に聞けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外でもなじみの方や近所の近所の方などのかかわりを大切にしている。地元の美容室の先生に来ていただいたり、散歩で自宅の前を通る方もいる	運営推進会議の委員や地域住民からも気軽に声掛けされ、日常的な交流がある。訪問カットの美容師とも馴染みの関係が出来ており、利用者の個性の理解も得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や気分などを観察し、利用者様同士の関係がうまくいくように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所しサービスが終了した利用者様に合いに行くこともある。また、サービス終了した利用者様のご家族の相談にも乗ることもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々にかかわりの中で、把握に努めているが希望の対応が困難な場合は、本人の希望にできるだけ添えるように努めている。	利用者・家族の思いや希望について詳細に記入されている。日々の支援の中での聞き取りや利用者の様子から思いを読み取り支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時や、入所前にご自宅を訪問したりご本人や家族からどんな暮らしをしていたか聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムやできることわかる事の把握に努め、ホームでの生活を穏やかに送れるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを含め職員が意見交換しながら、本人らしく暮らせるように介護計画を立てている	利用者の課題に沿った介護計画が作成されている。毎月のモニタリング、半年ごとの担当者会議が行われ、利用者の心身の状況や変化を職員間で共有し、課題意識を持って介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や、水分摂取、排泄などありのままを記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎などその時必要な支援を柔軟に行っている		

事業者名：和幸苑グループホーム望み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園や、学校のボランティア、中学校の職場体験学習の受け入れもやっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医や医療機関を受診している。Drとの話を一緒に聞くことで施設での生活で気を付けることなども把握している	協力医が掛かりつけ医となり、毎週往診を受けている。毎日、ファックスで利用者のバイタルを報告し、日常の健康管理や重度化の助言を受けている。精神科などの専門医受診の除は職員対応で行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日かかりつけ医にバイタル測定の記録を報告し連携を図っている。また、状態によってはかかりつけ病院の看護師に相談することもある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決定したときは病院Drと家族と相談し、できる限り早期退院ができるよう情報提供し認知症状が悪化しないように面会に行くようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時説明を行うとともに、面会時は状況を伝えながら終末期の話をしている。	事業所利用開始時に話し合いを持っている。利用者の状況に合わせて、家族に状況の説明をし、掛かりつけ医のアドバイスを受けながら、利用者の思いに寄り添った重度化終末期支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時はマニュアルに沿って対応できるようにしている。また、かかりつけ医にすぐに相談できるような関係を築いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は施設内で訓練を行っているが、津波などの水害の訓練は自治会と一緒にすることで協力できるような仕組みを作っている	年2回、火災対応での避難誘導訓練を行っている。自治会との合同避難訓練では、避難する際に利用者の車いすを押すなど、複数の地域住民の協力支援が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを第一に考え、自己決定しやすい声かけや対応に努めている。	親しみ深い話しかけをコミュニケーションツールにしたり、穏やかな対応に心がけ、ユマチュードの技法を生かした支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現の少ない「～したい」とおっしゃらない利用者様にはできるだけ働きかけ希望に添えるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて、朝食時間や夕食時間をずらして食事する方の対応も行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	白髪染めなど、ご本人とご家族の意向で施設内で行っている方もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物(ふき・つくし・スイカの種取り・おはぎつくり等)は特に一緒にできるように声掛けを行っている。	3食とも事業所厨房で、旬の食材を利用した手作りの食事が作られている。食思が減退している利用者には、医師の助言を受けながら、好物や食べられる食品、栄養補助食品を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量が少ない利用者様の好みに合わせて、他の物を提供したり、お茶だけでなく嗜好品(コーヒー・ジュース等)に変更しながら支援に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、口腔ケアの声掛けを行い上手にできない方の介助や義歯の管理も行っている		

事業者名:和幸苑グループホーム望み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表を付け、定期的な誘導介助や失禁の確認も行っている。夜間トイレまでなかなか行けない方には、ポータブルトイレを居室に設置している方もいる	自身でトイレでの排泄を続けている利用者には、取り出しやすい場所にパッドを置き、自立支援に繋げている。失敗した時も本人の気持ちを大切に声掛け、支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やレクリエーションなど体を動かせる範囲での運動などにも取り組んでいる。食事も食物繊維が多めにしたり、水分補給も積極的に行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきに入浴は行っているが、本人が入浴を拒否する事も多く、タイミングなどを見て午前中や排便後などに誘導する方もいる。	週3回、午後入浴を基本としている。介護度5の利用者もリクライニングシャワーチェアを活用し、複数の職員対応での入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動を促し、生活リズムが整うように援助している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や主治医のファックスなどいつでも確認できるようにしている。服薬は一人ひとりに合わせて介助・見守り確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、テーブルふき等できることの手伝いをしてもらうこともあるが、身体状況も重度化しできることが減ってきている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や日光浴等天候や本人の体調に合わせて出かけられるよう支援している	日常的に事業所近辺の散歩を楽しんでいる。春は花見に、天候の良い日には複数の利用者でのドライブに出かけている。家族と外出したり、外泊を楽しむ利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所でお金は管理している。買い物に行っても「よくわからない」「ほしいものはない」とおっしゃる方が多い。受診時売店で好きなものを購入していただくときもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置し、好きな時に家族と話ができるようにしている方がいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は、フロアで過ごされる方が多く、台所の音やおいが感じられる空間になっている	広々とした共有空間では、皆でテーブルを囲んでゲームを楽しんだり、昼食後は、ソファで会話を交わしながらゆったりと寛いで過ごす居心地の良い場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファでは、それぞれ好きな場所に座って過ごしてもらうことが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は時分の作品を飾ったりしていただいたり、家族の写真を飾っている方もいる	利用者の状況に合わせてベッドの位置を設定し、寝たきりの利用者が共有空間にいる職員とコミュニケーションを取れるように工夫したり、重度化した利用者が共有空間の音や雰囲気を感じる事が出来る工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に自分で行き来できるよう、居室に大きく名前を貼ったり、トイレや洋室にも目印をしている		